

# 小須戸公民館報

町館 須戸 公民館  
小須戸 公民館  
発行所 須戸 公民館  
発行人 成田 常信  
発行日 毎月 15日

## 名言に生かされて

### ～ 光陰虚しく度るなかれ～

本町二 松尾 邦典



ふくろう講座でお話する松尾さん。話の内容も「名言に生かされて」である。今年度三回お話してもらった。

「一日をいたずらにつかうことなかれ。この一日は、惜しむべき重宝なり。尺璧の価値に擬すべからず。古賢、おしむこと身命よりも過ぎたり。しずかにおもへし、尺璧はうることもあらん、一生百歳のうちの一日は、ひとたびうしなわん、ふたたびうるることなからん。いづれの善巧方便ありてかすぎに一日をふたたび返したる。」  
(道元禪師著「正法眼蔵」行持の巻)

今生きている私達のこの一日は、さわめて尊いもので、少しでも無駄に使ってはならない。この一日は愛惜すべき重要な宝であり、一尺もあるような宝玉でも比較にならないほどの価値がある。だから、古の賢人たちも今のこの一日を、自分の命よりも惜しんだのだ。なぜなら、宝玉も何とすれば手に入れることもできる。だが、私たちの全生涯のうちの今日のこの一日は、一度これを失ったら、二度

と再び戻ってこない。今迄に、過ぎ去ってしまった一日を、もう一度取り返してきたという例があつたであろうか。もっともつと、歳月を惜しみ、時間を惜しみなさい、と禪師は教え諭されます。そして、さらに次のように明言されます。

日を無駄に過ごすということ、は、名譽や利得に目が眩み、乱れた生活をするのであり、日を無駄に過ごすこと、というものは、真理のために日々の行動を実践することだということです。そのためには、のんびりとした春の日においても、しとしとと雨の降る夜間にも、常に「光陰虚しく度らぬ」と一日も無駄に過ごさない」という考えを忘れるべきでないと思われたい。

一日は二十四時間。そしてこの量はどんな人にも平等に与えられています。あの人は三十時間、この人はその半分などということはなく、当然ながら万人みな二十四時間があたえられています。しかし、同じ二十四時間でも、過ごし方によって大きな差が生ずることもあると思われたい。充実した一日を過ごした人にとっては、一日はそれこそ何十時間も相当する生き方だつたでしょうし、空しく過ごした人にとつて一日は僅か五六時間だつたというところもありましょう。とすれば、いかにその二十四時間を有効に使うか、その使い方に問題があります。私たちはとかく、「時」を空しく過ごしがちであり、「時」という宝物を浪費していることに気付いていないようです。「今日のこの一日」をもっと真剣に考えて生きなければ、本当に生

## ちよこつと一言 (35)

かなり冷え込み、豪雪地域新潟県の人達も、雪を心配する時期になりました。とはいっても、窓を開けて外を眺めても、雪らしい雪は見あたりません。二月中旬にはたたくさんの雪が降っているかもしれないが、私の小さい頃には、かまくらや雪だるまを作ったり、屋根の雪下ろしを家の人によくさせられました。



山田 宏君

フロンガスなどによるオゾン層破壊は、地球の温暖化を誘発し、私達に雪のない冬をもたらしてはならないかと思ひます。雪が少なくて喜んでる人も多いと思いますが、何だかちょっと寂しい気もします。自然環境がますます破壊される中で、地球は一体どうなってしまうのでしょうか。少し心配です。

### あいさつ標語入選作品

はにかます  
みんなでかわそつ  
あいさつを  
新町一 鈴木美津男さん



松尾さんのお話を聞くふくろう講座参加者

しまいます。シエークスピアは人間の一生を「東の間の灯火」といつたし、鴨長明は「朝に死に夕に生まるる習ひ、ただ水の泡にぞ似たりける」と述べました。何と人生の短いことか。しかし、「人生は短いではない、われわれがそれを短くしているのだ」といった哲学者がいます。それはどうしてかという、貴重な人生をついウカウカと過ごし、快楽に溺れて空費しているからだといふのです。

冒頭の、道元禪師の教えはなかなか守りにくいのですが、生きていくには、時間の空費・浪費は厳に戒めねばなりません。一日一日をへ空しく過ごすまい。光陰むなしくわたるなかれ」と決意して過ごすのみです。

## 寒さなんかふつ飛ばせ!!

### 寒げい古に百七十人参加

今年の冬は晴れる日が極端に少ない気がする。おまけに寒い。雪は少ないと思うが、そこはやはり冬。寒いのはキライである。そんな寒さの中、今年も恒例の柔剣道振興会による寒げい古が行われた。期間は一月二十一日から二十七日までの一週間。風邪の流行した時期にもかかわらず参加者柔道四十四人、剣道百二十六人、計百七十人中、皆勤者が百二十人以上いた。小学生から年配者まで、寒さを忘れる程の厳しい古で道着から汗による湯気(?)が出る程、寒げい古の最終日は、柔道、剣道共に紅白戦を行い、その後



寒げい古の最終日は、柔道、剣道共に紅白戦を行い、その後

## おじいちゃん、おばあちゃんもみんな一緒のもちつき大会

矢代田小学校・PTA



二月三日、町民体育館と第二町民体育館で、小須戸町民インディア大会が開催されました。参加者は一般、中学生を含め約五十人が参加。外の寒さとは逆に熱い試合を繰りひろげたのでした。

結果は一般の部で鈴木・本望組が初優勝しました。その他の結果は次のとおり。

### 町民のみなさんへ

館報は町民のみなさんと行政・教育機関とのパイプ役です。館報の内容についてご意見、ご感想をぜひ事務局にお聞かせ下さい。氏名は匿名でもかまいません。いつでもお待ちしています。

送付先 小須戸町若葉町二 中央公民館内公民館報事務局

- やおばあちゃん、PTAのみなさんと一緒にもちをつく。今のきねは昔と比べ軽いのだが、それでもついたことの無い子ども達も思ふようにつけない。それでもみんな楽しんでついたので、ひとりで二回ついたので、全部のもち米の量は三十六kgにもなる。ついたもちはきなこや砂糖じょう油につけて食べる。結構な量だあと見れば、食べる食べる。自分でついたらおいしいのか本当によく食べて、ついに全部無くなってしまった。ついでに私もいただき食べてきた。うん、おいしい。
- 地域の人達と子供達がひとつになつて一生懸命もちをついたり、おじいちゃん、おばあちゃんとお話をしたりするもちつき大会。子供達にとつてもPTAやおじいちゃん、おばあちゃんにとつても、楽しく、貴重な催しである。今後も続いていく事を期待する。
- |     |             |
|-----|-------------|
| 優勝  | 鈴木弘典(豊浦町)組  |
| 準優勝 | 本望学(新保三)組   |
| 準優勝 | 小山高美(新津市)組  |
| 準優勝 | 関川文彦(新津市)組  |
| 三位  | 佐藤豊(新津市)組   |
| 三位  | 木村昌彦(矢代田二)組 |
- 優勝 森田佳典(新保町四)組  
準優勝 石田和成(天ヶ沢三)組  
準優勝 松田美次(文京町一)組  
三位 高山淳也(新保二)組  
三位 石黒直之(新保三)組  
三位 時田拓也(新保町三)組
- 優勝 池田香織(横川浜)組  
準優勝 砂井朱美(新町二)組  
準優勝 藤田恵美(新町一)組  
三位 加藤由香(本町四)組  
三位 齊藤こず恵(天ヶ沢)組  
三位 田巻美奈子(白根市)組  
同 木伏美和子(矢代田三)組  
同 大江麻奈(文京町二)組

### 三分一地区でのふろく創作

#### サイの神焼き

一月十五日、矢代田三分一地区で、サイの神焼きが行われました。この地区では親睦のため有志が集まり、秋には月見冬には雪見と酌み交わすうち、昔行われていたサイの神焼きを復活させようという事になりました。

サイの神は、古老の話や、各地の例を参考にしながら苦心して作り、毎年改良を重ね四回目の今年は大人数で約一日かけて作り直しました。この苦労がまた楽しいのです。

当日は開始の直前に注文したかのように雪が止み、



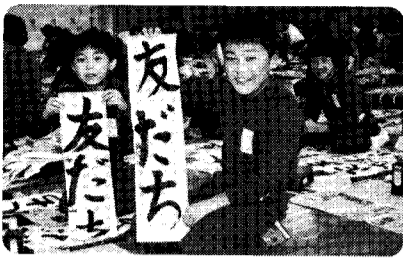
雪が下サドサ降る二月六日、みなさんから集めていただいてるリングブル約十五kgを届ける第一回目として亀田町にある神障託児施設の「わかばの家」に届けてきました。

亀田町ではこのわかばの家を中心とした活動している神障児を持つ父母で作る「あじさいの会」がリングブルを集めています。小須戸のリングブルはここでひとつにまとめて県の社会福祉センターに運ばれアルミとして換金業者に渡されます。換金されたお金で、年に一回障害者のために走る列車「ひまわり号」で使う車イスなどに使われます。あじさいの会、野村さんのお話「私達は障害者を持つ親の会です。日頃抱えている悩みをみんなで持ちよりお互い支え合い子供のためにがんばっています。リングブルを集めるのは、集める事で少しでも福祉の役に立てると思つたからです。小須戸のみなさんに心からお願いいたします。

### 新春恒例の書きぞめ大会記

毛筆の良いところは、文字というものに集中する事と動きのムダを無くする事ではないだろうか。昨年に続き今年も書きぞめ大会を取材してきたのだ。今回は中学校にも行ってきたぞ。

一月十日矢代田小、十六日中学校が書きぞめ大会。矢代田小は体育館に三年から六年が集ま



矢代田小書きぞめ大会

り一勢に書いています。「体育館で書く」と連帯感が出たり、他生の作品を見て啓発されるのがよいことだね。ついでに父母も来て一緒に書いてもらえればもつといいね」とは藤田校長。

去年は手本をほめて子供におこられたので今年はきつちり作品をほめる。「じょうずだねっか」「うん、えへへ」。この返事のタイミングと素直に喜んでくれるのがとても気持ちよい。だからみんなの作品をほめてきた。ちつとほめすぎらったかな。

中学校は各教室での書きぞめ。小学校はレクリエーション的だったが、中学校は空気がピンツツとして声が出にくい。みんな相当集中している。あたりまえだが作品をほめるどころではない。中学になるとさすがに違っ

### リングブル

#### 第一回目、届けてきました。

雪が下サドサ降る二月六日、みなさんから集めていただいてるリングブル約十五kgを届ける第一回目として亀田町にある神障託児施設の「わかばの家」に届けてきました。

亀田町ではこのわかばの家を中心とした活動している神障児を持つ父母で作る「あじさいの会」がリングブルを集めています。小須戸のリングブルはここでひとつにまとめて県の社会福祉センターに運ばれアルミとして換金業者に渡されます。換金されたお金で、年に一回障害者のために走る列車「ひまわり号」で使う車イスなどに使われます。あじさいの会、野村さんのお話「私達は障害者を持つ親の会です。日頃抱えている悩みをみんなで持ちよりお互い支え合い子供のためにがんばっています。リングブルを集めるのは、集める事で少しでも福祉の役に立てると思つたからです。小須戸のみなさんに心からお願いいたします。



子ども達と野村さんと みんなが集めたリングブル



小須戸中書きぞめ大会

地域行事などにおじゃましてレポートする〇〇記を今後は続けて書いて行きます。催し物や、行事、会議、なんでも連絡下さい。するどくレポートさせてもらいます。

リングブル 収獲状況

2月1日 現在 21.7 kg

催し物 ご案内

老連おたのしみ会  
唄に踊りに手品もあるぞ  
期日 二月二十四日(日)  
午前九時三十分  
会場 中央公民館三階ホール  
主催 小須戸町老連

おひなさま料理講習会  
どなたでもご参加下さい。  
期日 三月三日(日) 午前十時から午後二時頃まで  
会場 ふれあい会館調理室  
申込 当日会場において下さい  
参加費 一人二百円(当日)  
主催 小須戸町連合婦人会

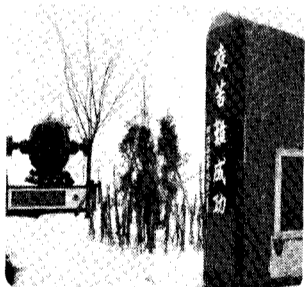
### 水と闘ってきた小須戸

小向・水田の堤防から信濃川方向を見るとちよつと小高くなっている所が川添いに続いている。昔の自然堤防である。昔は雨量が多いと必ずと言っていい程小須戸は水害に悩まされてきた。安永七年(一七七八年)には小須戸村と横川村で全壊八軒半壊二軒の被害が出たと記されている。この水害で被害を受けた農民の中には新築田城まで物乞いに赴く者、一家離散して他国をさまよう者も多く出たという。特に農民は田畑への影響が大きな悩みであった。そのため

他村の農民と大雨の時には堤防の堰をどこで切るかで争いとなつた。争いの中には竹槍や刃など切り合いもあった。

明治三十年、降り続く大雨の中を小須戸と田上の農民が五社川(水田から田上)の堤防を巡って争った。争っているうちに田上側が堰を切つたため水が小須戸側に流れ、怒つた小須戸の人々が都役所に抗議のため押しかける騒動があつた。

大正以降に下興野排水機場の完成、大通川の改修等が行われ昭和八年頃から耕地整理による



ふくろう講座 「良寛はなぜ偉い?」

期日 三月八日(金)  
午後七時三十分から九時まで  
会場 中央公民館二階会議室  
お話 中央公民館長 成田常信  
16%映写機操作認定講習会

この機会にぜひ資格を取り、地区での上映に役立てて下さい。  
期日 三月十日(日) 午前九時から午後四時まで  
会場 中央公民館二階視聴覚室  
参加費 一人四百円(資料代) 持参する物 印鑑 筆記用具 昼食  
申込み 三月三日(日)までに 中央公民館事務局へ  
主催 中央公民館

第十四回ボケ展示会  
期日 三月一日(金) から三日(日)まで 午前九時から午後五時(但し三日のみ午後四時まで)  
会場 小須戸町第二町休 (旧小須戸小学校体育館)  
主催 日本ボケ協会  
※ボケ酒の試飲もありますよ。

### 小須戸川柳会

特別「特別」

特別と思うはあなたの好き勝手  
特別品しこたま買って無駄を出し  
特別においしく飲める孫の酌  
母ちゃん特別メニュー気にかかり  
あの席は胡麻播り男の座る場所  
特別な手立ても持たぬ処世術  
お相撲の特別仕立着大鼓腹  
特別に嬉しい日です薄化粧  
今日だけは特別上座をすすめられ  
特別と思つた人が鼻につき  
特急が通過して戻るローカル線  
特別よあなただけよとネタを誇り  
羨望が悪いと引いて特別賞  
特別にギャルの気を引く芸能誌  
娘の胸に特別の人様み始め

加藤米二  
長井武雄  
吉田源吾  
栗原ひさし  
我妻清作  
高橋ただし  
松沢キヨ  
藤井春江  
小見ケン  
五村タネ  
保科志枝  
安達キヨノ  
渡辺信子  
駒村幸世  
吉田みな

### 短歌クラブ作品

空も樹も地も無彩色の冬の庭花びらのごと子  
等は駆けゆく  
激動の昭和もゆきて早や三年平成の世は如何  
になるやも  
音もなく降り積む雪に群竹のなが身震るわす  
音の聞こゆる  
長井利恵子  
夏坊主の花の盛りとなりけり強霜ひかる如  
月の庭  
鈴木ハナ  
荒波に釣糸たれる三人見ゆ魚は波間にのりて  
来ららし  
吉田久次  
繋ぐ手をいきなり放しわが孫は小さな靴で春  
泥渡る  
牧野信雄

### 一月例会作品

小須戸町俳句同好会

居を変えて幾度なりや実南天  
受け入れることまこと実南天  
鴨去るも去らずも揺るる実南天  
実南天 馴染の顔の診療所  
庭先に鴨のきてる実南天  
実南天 日陰の暮しにも慣れし  
実南天 小鳥すり寄る日の溜り  
啄みの仕草おかしき実南天  
実南天 新居のくらしに未だ慣れず  
借景の山並昏るる実南天  
実南天 郵便受けに家族の名  
母よりのかんざしにも似実南天  
標札を確かめてをり実南天

中野太浪  
吉田素糸  
大野露春  
小林富沙子  
内山越樓  
五十嵐香月  
田中美根子  
吉田ミナ  
名古屋蒼亭  
間野良遊  
間島秀穂  
佐久間久子  
丸山虚秋

### 俳句教室作品

初生けの花瓶の変形を押し  
朝刊を待ちて七十路の雪を掻く  
読み飽きて手枕なじむ炬燵かな  
軒毎に吊す大根過疎の村  
位牌抱く小さき肩や冬の雨  
括られてつき出て咲けり寒椿

須藤恵美子  
野保玲子  
駒村さらよ  
長井武雄  
藤井はるえ  
村山又雄